

茨 剣 連 廣 報

令和6年1月発行

一般財団法人 茨城県剣道連盟



山崎淳一作 能面・白式尉（はくしきじょう）

〔観世流能楽師 橋岡伸明氏所蔵写〕

主な記事

新たな未来に向けて(水田重則)..... 3
 令和五年度上半期の活動に思う(齊藤克朗)..... 4
 写真で見る剣道祭..... 5
 県内・県外大会記録..... 7
 試合参戦記 ※開催日程順に掲載
 令和五年度全日本高齢者武道大会で準優勝して「剣道と健康の両輪で」(張貝義夫) 11
 令和五年度全国高校総体剣道大会で優勝して(安田拓朗).....11
 念願の春夏連覇を達成して(中村桜子).....12
 インターハイを振り返って(酒井大翔).....12
 令和五年度第五回全日本歯科医師剣道大会「七段の部」優勝(大岩 真).....13
 第六五回全国教職員剣道大会に参加して(山下克久).....13
 全国教職員剣道大会個人三位に入賞して(中根悠也).....14
 「宝物」を得た夏(白子美貴).....14
 関東・全国大会までの道のり(川崎泰知).....15
 第六二回全日本女子剣道選手権大会を観戦して(中澤裕子).....16

特別国民体育大会(燃ゆる感動かごしま)を終えて(大久保隆).....17
 第三五回全国健康福祉祭えひめ剣道交流大会第三位に入賞して(千羽道夫)17
 第七一回全日本剣道選手権大会(準優勝)を終えて(松崎賢士郎).....18
 段位審査合格者.....19
 合格者の声
 感謝(長南孝男).....20
 剣道七段に合格して(遠藤瑞土).....20
 皆様に感謝(山下和真).....21
 剣道六段に昇段して思うこと(佐藤晶子).....21
 杖道五段合格(黒沢敬二).....22
 つくば地区剣道連盟と韓国との国際交流(飯泉省三).....23
 コラム 女子剣道特集
 主婦と仕事と剣道(千野千佳子).....24
 交剣知愛(倉持利夫).....25
 わたしたちの《どうじょう》.....26
 表紙および作者紹介・事務局だより・編集後記.....27

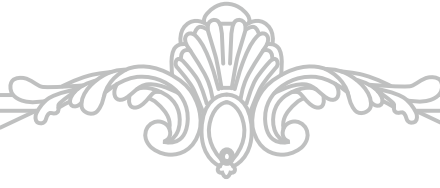


表 彰

全日本剣道連盟表彰

令和五年度 剣道有功賞 受賞者

本江 義明 村田 修

令和五年度 少年剣道教育奨励賞受賞団体

日立ジュニア剣道クラブ	金沢剣道スポーツ少年団
久米剣道スポーツ少年団	御城館
友部剣友会	玉里館道場
若竹剣友会	如月会
荃崎剣道部	下館武道館士徳会

(一財) 茨城県剣道連盟表彰

令和五年度「奨励賞」受賞者

益子 昭一	菊池 馨	小澤 勲
松下 泰子	徳村 康秀	戸祭 守男
田崎 盛夫	大室 高志	浮田 富榮
満生 博	大塚 則夫	助川 博夫
小室 俐	岡野 宏明	浅野 信之
角田 享四郎	塚田 治	木村 榮治
諏訪 幾家	大塚 有子	篠原 武司
市村 國子		

新たな未来に向けて



(二財) 茨城県剣道連盟
会長

水田 重則

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は当連盟の運営に対しご支援とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年五月、会長職を拝命し半年が経過しました。これまで「剣道仲間」だった人たちと日々いろいろなことを相談しながらやってきて、あつという間の六か月でした。

新型コロナウイルスの位置付けが本年五月八日に「5類」に移行し、剣道においても様々な活動が再開されました。県内外での試合や審査会、講習会が再び活発に行われるようになりました。

五月以降、私は当連盟の関わるほぼすべての試合に足を運びました。県の代表が出場した試合のひとつ「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会「特別国民体育大会」(十月

八)十日、鹿児島県霧島市)、茨城県はベスト16にとどまりましたが、私は強化稽古にも参加して選手の一人一人が代表となった責任を背負って一生懸命に取り組んでいる姿を知っていましたので、茨城県の今後の可能性をおおいに感じながら観戦しました。また、この国体を目指した「特別国民大会関東ブロック大会」(八月二十日、埼玉県立武道館)において、成年女子は惜しくも本選出場を逃しましたが、相手に向かつて果敢に攻め込んでいく姿に女子剣道界の今後を見た気がして感動を覚えました。高校生は守

谷高校が全国大会で選抜・総体の二冠、水戸葵陵高校が総体三位と躍進、また中学生も活躍しました。当連盟では「剣道競技人口拡大プロジェクト」が進行中ですが、若い世代の活躍がプロジェクトを後押ししてくれることを確信いたします。また、県内の剣士の皆様も第五四回茨城県剣道団体選手権大会(七月十七日、石岡運動公園体育館)、いきいき茨城ゆめ国体開催記念第二回茨城県地区・職域対抗剣道大会(十月二十九日、ザ・ヒロサワ・シティ体育館)などで、楽しくまた熱心に稽古に取り組んでいる成果を見せて

くれました。本県の予選会に出場される方がこの中からも増えて、切磋琢磨の機会となればいいなと思いつながら試合を拝見しました。

講習会については、七月一日に東日本技術研究所武道館にて開催された令和五年度学校剣道指導者養成講習会には、休日ということもあって例年になく多くの人が参加しました。また、八月末につくば市と交流がある韓国大田(テジョン)廣域市剣道會が茨城県を来訪し、第七一回全日本剣道選手権大会茨城県予選会を見学された翌日にはこの訪日団に向けた講習会がつくば市内で開催されました。「日本の剣道の基礎を学びたい」という要望に応えるため、当連盟は八段講師三名(水田重則、川崎臣、井上豊)を派遣して協力しました。言葉の壁を越えて彼らは指導法の講義を熱心に聴き、その後の合同稽古では全力の姿を見せてくれました。このような素晴らしい交流を実現させたつくば地区剣道連盟に深く感謝するとともに、当連盟がそれに協力できたことを大変喜ばしく思います。そして十一月三日に剣道有功賞を受賞された本江義明先生、村田修先生に心からお祝いを申し上げます。

す。本江先生は土浦日大高校の強豪剣道部を長く牽引されてきた先生です。本江先生のご指導から多くの県代表選手が輩出されたことは皆様よくご存じと思います。村田先生は波崎高校に赴任されて剣道部の顧問となられた日から、同校剣道部をインターハイ、関東大会の常連校に育て上げました。その手腕と部員に頼られ慕われるお人柄は、同じ教職にあつた私のお手本でした。

会長職の重責をお引き受けして半年、初心を忘れていないか、私は事務局長が連盟のホームページに掲載してくれた自分の目標を時々眺めます。当連盟の活動に賛同し、協力してくださる方々のお力添えを頂きながら、軽やかにしなやかに、当連盟に関わるすべての人が茨城県の剣道界が抱える課題について意見を出し合い、対話を通じて解決に向けた方向性を共有できるような場を作っていくのが私の役目だと思っております。茨城剣道界は多くの強みを持っています。茨城剣道界は多くの強みを持っていきますが、それに胡坐をかきたくなく、よりよい未来に向けて常に成長し、そのための変革を続けていきたいと考えています。皆様のご指導、そして益々のお力添えをお願い申し上げます。

令和五年度上半期の活動に思う



(二財) 茨城県剣道連盟
専務理事

齊藤 克朗

昨年五月に新型コロナウイルス感染症の感染種が5類（一般感染症）に移行されたことにより感染症対策への制限も緩和され剣道等の活動も感染前に戻りつつあります。そうした動きの中で本連盟の計画行事も順調に行なわれております。これも会員の皆様方の多大なるご支援とご協力によるもので厚く御礼申し上げます。

令和五年度は目標として本県における剣道等の充実発展とともに県外大会での好成績、それに剣道等の競技人口の拡大と中学校部活動の地域移行の円滑な推進を目指してスタートいたしました。

県外大会での成績については、本紙「大会記録」に記載があるように各種大会において大いなる活躍がありました。男女の都道府県対抗剣

道大会ではともに三回戦で敗れ入賞こそ逃しましたが、実力県力量を十分に感じさせる試合内容で高い評価をいただきました。また、学校関係の活躍も大変見事でありました。中体連の全国中学校大会では女子団体において青葉中学校が第三位、高体連でも全国高校総体（インターハイ）において守谷高校女子が春の全国選抜大会に続き全国連覇、男子の水戸葵陵高校も三月の全国魁星旗大会の優勝に続いて第三位、また学剣連の全国教職員大会においても団体と個人ともに第三位に入賞するなど本県の学校所属選手並びに指導者の競技レベルの高さを大いに示してくれました。さら

には全日本高齢者武道大会でも年代別の各部門で四名もの上位入賞者を出すことができました。また九月の敬老の日には三〇〇名余りの剣友の参加を得て「剣道祭」を四年ぶりに開催いたしました。高齢者表彰では本年一〇〇歳を迎えた高崎慶男先生を始め多くの先輩方の長寿をお祝いし、演武披露では剣道と居合道それに杖道や古武道の発表の場においては剣友の日頃の精進

の成果と健在ぶりを拝見することができました。このように上半期の活動は正に「尚武茨城」の証明と全剣連が推奨する「生涯剣道」への進展充実ぶりを感じられる結果となりました。

次は剣道等の競技人口減少への対応については、剣道、居合道、杖道、それぞれの専門性を生かして入門者拡大に努めていただいています。剣道では、近年、道場連盟や中学校体育連盟の努力によって緩やかな減少にとどまっておりますが、ここ数年の感染症による活動の自粛や中学校部活動の地域移行といった剣道を取り巻く環境の変化や活動に触れる機会の減少から少年期の入門者が激減しております。新規入門者数は一級審査会の受審者数に重ねると大幅な減少傾向が見えてきます。この数値がこれからの活動へのマイナス影響にならないことを願うばかりです。本連盟では減少への歯止めとともに入門者拡大に向けて本年度「競技人口拡大プロジェクトチーム」を発足し剣道等の競技人口拡大への検討を開始しました。地区及び職域連盟におい

てはこれまで以上に剣道等の魅力を発信に努めていただき入門者の拡大を図っていただければ幸いです。

「中学校部活動の地域移行」の推進については、学校へ派遣できる指導者の確保が急務になっており本連盟でも茨城県教育委員会の協力を得て「学校指導者養成講習会」を新規に開催し指導者養成を図りました。これから市町村教育委員会から各地区連盟に、各学校への指導者派遣要請が来るかと思えます。それぞれの連盟においては指導者組織の整備を図っていただきたいと思えます。

今、社会は大きな混乱期にあります。世界のあちらこちらで紛争が起きます。新たな感染症や自然災害への不安も増してきています。また自分の利益が優先され犯罪種も「人の道」を疑ってしまうものが多くなってきました。今こそ人間形成を目指す剣道の優位性を示す時ではないでしょうか。「人を作る、人を生かす、活人剣の創造」がひいては剣道ができる社会貢献になると考えています。

写真で見る剣道祭

九月十六日 東日本技術研究所 武道館にて
※演武順



記念演武 居合道 山崎明正 範士八段



記念演武 日本剣道形 川崎臣・井上豊 両教士八段



古武道演武 小野派一刀流



記念演武 北辰一刀流



古武道演武 神道夢想流杖術



古武道演武 新田宮流抜刀術



剣道長寿立合者 (80歳以上)



杖道演武



剣道八段者による立合



県外剣道八段招待者



県内剣道八段立合者



長寿者（80歳以上）記念写真Ⅰ



長寿者（80歳以上）記念写真Ⅱ



剣道祭終了後の合同稽古会参加者

県内・県外大会記録

令和五年度 第七〇回全国高等学校剣道大会茨城県予選会

期日 令和五年六月十三日(火)
会場 ザ・ヒロサワ・シテイ体育館
(男子団体)

優勝 水戸葵陵高等学校

(インターハイ出場)

準優勝 茗溪学園高等学校

第三位 水城高等学校

第三位 土浦日本大学高等学校

第五位 土浦第二高等学校

第五位 取手第一高等学校

第五位 下館第一高等学校

第五位 下妻第一高等学校

期日 令和五年六月十四日(水)

会場 ザ・ヒロサワ・シテイ体育館
(女子団体)

優勝 守谷高等学校

(インターハイ出場)

準優勝 水戸葵陵高等学校

第三位 取手第一高等学校

第三位 鹿島学園高等学校

第五位 下妻第一高等学校

第五位 常総学院高等学校

第五位 鹿島高等学校

第五位 茗溪学園高等学校

期日 令和五年六月二十四日(土)

会場 池の川さくらアリーナ
(男子個人)

優勝 入江 陽介(水城高等学校)

インターハイ出場

準優勝 神賀 士道(茗溪学園高等学校)

インターハイ出場

第三位 浅野 達彦(土浦日本大学高等学校)

第三位 武本 瑠依(水戸葵陵高等学校)
第五位 松山 大和(取手第一高等学校)
第五位 酒井 大翔(水戸葵陵高等学校)
第五位 坂本 秀司(下妻第一高等学校)
第五位 大部 響(土浦日本大学高等学校)

(女子個人)

優勝 五十嵐 和奏(守谷高等学校)

インターハイ出場

準優勝 村田 結依(守谷高等学校)

インターハイ出場

第三位 町田 結依(茗溪学園高等学校)

第三位 黒澤 結依子(常総学院高等学校)

第五位 岩崎 千夏(常総学院高等学校)

第五位 小磯 美結(取手第一高等学校)

第五位 藤巻 紗芭(土浦第二高等学校)

第五位 一色 結月(水戸桜ノ牧高等学校)

令和五年度茨城県民総合体育大会兼第七八回国民体育大会茨城県大会剣道競技

期日 令和五年七月一日(土)

会場 内原ヘルスパーク
(少年男子の部)

一位 酒井 大翔(水戸葵陵)

二位 武本 瑠依(水戸葵陵)

三位 浅野 達彦(土浦日大)

四位 永原 弘基(茗溪学園)

五位 入江 陽介(水城)

六位 梶平 恭吾(水戸葵陵)

七位 大部 響(土浦日大)

少年男子の部 代表選手 (本大会上位四名+推薦選手)
神賀 士道(茗溪学園) ※推薦規定により決定済み

(少年女子の部)

一位 今村 真穂(守谷)

二位 中村 桜子(守谷)

三位 高橋ひかり(取手第一)

四位 小磯 美結(守谷)
五位 町田 結依(茗溪学園)
五位 黒澤 結依子(常総学院)
少年女子の部 代表選手 (本大会上位三名+推薦選手)
五十嵐 和奏(守谷)
村田 結依(守谷)

第五七回茨城県居合道大会

期日 令和五年七月二日(日)

会場 東日本技術研究所武道館
初段以下の部

優勝 飯塚 有紀(下妻)

準優勝 河原 大央(石岡)

第三位 佐藤 洋平(古河)

第三位 諸星 柊悟(笠間)

二段の部

優勝 長島 敦(水戸)

準優勝 安附 徹(水戸)

第三位 秋葉 尚子(古河)

第三位 倉持 昇(古河)

三段の部

優勝 朝日 勇貴(鹿行)

準優勝 長峰 千津子(かずみがうら)

第三位 古谷 きよみ(守谷)

第三位 川嶋 丈夫(笠間)

四段の部

優勝 鈴木 悠一(土浦)

準優勝 矢治 光一郎(土浦)

第三位 落合 隆行(守谷)

第三位 宇野 哲也(水戸)

五段の部

優勝 佐藤 吉典(土浦)

準優勝 櫻井 隆士(かずみがうら)

第三位 徳宿 典孝(ひたちなか)

第三位 小瀧 徳行(水戸)
六段の部
優勝 橋本 篤志(鹿行)
準優勝 磯目 一路(石岡)
第三位 谷川 久朗(下妻)
第三位 大庭 良介(下妻)

七段の部

優勝 齋藤 健一(鹿行)

準優勝 二瓶 貴博(日立)

第三位 鳥越 啓隆(石岡)

第三位 来栖 利枝(土浦)

第一五回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

期日 令和五年七月九日(日)

会場 日本武道館
ベスト8

村田 結依(先鋒) 優秀選手賞

笠 日向子(次鋒)

駒田 奈都(五将)

星野 若葉(中堅)

北原 亜香里(三将)

相馬 沙織(副将)

落合 弥生(大将)

第四三回茨城県女子剣道選手権大会兼第六回全日本女子剣道選手権大会県予選会

期日 七月十五日(土)

会場 東日本技術研究所武道館

優勝 笠 日向子(筑波大学)

第六二回全日本女子剣道選手権大会出場

第二位 村田 結依(守谷高)

第六二回全日本女子剣道選手権大会出場

第三位 中村 桜子(常総地区)

第五四回茨城県剣道団体選手権大会

期日 七月十七日(祝・月)

会場 石岡運動公園体育館

(男子の部)

- 優勝 警察剣道連盟A
- 準優勝 ALSOK
- 第三位 水戸刑務所
- 第三位 警察剣道連盟B

(シニアの部)

- 優勝 茨城県高齢剣友会A
- 準優勝 ひたちなか地区剣連
- 第三位 龍ヶ崎城南剣友会A
- 第三位 青藍館

(女子の部)

- 優勝 芳明館
- 準優勝 常磐大学A
- 第三位 土浦
- 第三位 常磐大学B

(各部門の優秀選手)

- 男子の部 木村 俊喜(警察剣道連盟A)
- シニアの部 石井 修(茨城県高齢剣友会A)
- 女子の部 矢口 良子(芳明館)

第四五回茨城県道場対抗剣道大会

- 期日 七月十七日(祝・月)
- 会場 ひたちなか市総合運動公園総合体育館
- 優勝 益水館A(全国大会出場)
- 準優勝 芳明館A(全国大会出場)
- 第三位 いばらき少年剣友会A(全国大会出場)

茨城県中学校総合体育大会剣道競技の部

- 期日 七月二十一・二十二日(金・土)
- 会場 東日本技術研究所武道館
- (男子団体戦)
- 優勝 青葉中
- 準優勝 総和中
- 第三位 勝田一中 谷田部中
- 第五位 下館南中 土浦三中

(女子団体戦)

- 優勝 青葉中
- 準優勝 猿島中
- 第三位 守谷中 茗溪学園中
- 第五位 水海道西中 結城中

(男子個人戦)

- 第一位 川崎 泰知(谷田部東)
- 第二位 會澤 日向(江戸崎)
- 第三位 小岸 俊友(土浦三)
- 岡崎 遥士(駒 王)

(女子個人戦)

- 第一位 宇佐美 華凜(青葉中)
- 第二位 櫻井 菜成(猿島中)
- 第三位 橋本 華(青葉中)
- 大蔵 茉央(青葉中)

第六二回関東七県対抗剣道大会

- 期日 七月二十三日(日)
- 会場 千葉県武道館
- 予選リーグ敗退
- 笠 日向子(先鋒) 星野 若葉(次鋒)
- 川上 厚子(六将) 松崎賢士郎(五将)
- 阿部 莞太(四将) 小池 卓司(三将)
- 大輪 竜司(副将) 坂本 隆(大将)

第五七回全国少年剣道大会

- 期日 七月二十七・二十八日(木・金)
- 会場 日本武道館
- 小学生の部 予選リーグ敗退
- 第九試合場
- 第三位 いばらき少年剣友会A
- 第十試合場
- 第三位 猿島剣友会A
- 中学生の部 予選リーグ敗退
- 第六試合場
- 第二位 いばらき少年剣友会B
- 第十一試合場
- 第三位 いばらき少年剣友会A

第十六試合場

- 第二位 阿見舟島剣道クラブ

茨城県中学生剣道団体選手権大会

- 期日 八月三日(木)
- 会場 かみす防災アリーナ
- (男子団体戦I部)
- 優勝 総和中A
- 準優勝 茗溪学園中
- 第三位 青葉中A 土浦三中A

(女子団体戦I部)

- 優勝 青葉中A
- 準優勝 青葉中B
- 第三位 茗溪学園中A 明光中

(男子団体戦II部)

- 優勝 茨大付属中
- 準優勝 取手二中
- 第三位 見川中 小川南中

(女子団体戦II部)

- 優勝 下館中
- 準優勝 那珂湊中
- 第三位 岩間中 山方中

第七〇回全国高等学校総体剣道大会

- 期日 八月三・六日(木・日)
- 会場 よつ葉アリーナ十勝
- 女子団体
- 優勝 守谷高校
- 男子団体
- 第三位 水戸葵陵高校

女子個人戦

- 第五位 村田 結依(守谷高校)
- 優秀選手賞
- 酒井 大翔(水戸葵陵高校)
- 村田 結依(守谷高校)

第五回全日本歯科医師剣道選手権大会

- 期日 八月六日(日)
- 会場 松戸市運動公園体育館
- 優勝 大岩 真

関東中学校剣道大会

- 期日 八月九・十日(火・木)
- 会場 小田原アリーナ
- 男子個人戦
- 優勝 川崎 泰知(谷田部東中)
- 女子個人戦
- 敢闘賞
- 宇佐美 華凜(青葉中)

女子団体

- 優勝 青葉中学校
- ベスト8 猿島中学校

第六五回全国教職員剣道大会

- 期日 八月十日(木)
- 会場 松江市総合体育館
- 団体戦 第三位
- 金井 辰彦(監督)
- 青木 心磨(先鋒)
- 中根 悠也(中堅)
- 川崎 臣(副将)
- 山下 克久(大将)

個人戦

- 第三位 中根悠也
- 優秀選手
- 川崎 臣
- 個人 中根 悠也

第七三回日光剣道大会

- (関東都県団体対抗優勝大会)
- 期日 八月十八日(金)
- 会場 日光東照宮武徳殿

初戦敗退

佐々木陽一朗(先鋒)
山下 和真(次鋒)
神部 栄司(中堅)
小池 卓司(副将)
遅野井裕樹(大将)

第五三回全国中学校剣道大会

期日 八月十八、二十日(金、日)
会場 愛媛県武道館

女子団体戦
第三位 青葉中学校

特別国民体育大会関東ブロック大会

期日 八月二十日(日)
会場 埼玉県立武道館

成年女子
第三位予選敗退

笠 日向子(先鋒)
星野 若葉(中堅)
川上 厚子(大将)

少年男子
予選リーグ敗退

浅野 達彦(先鋒)
永原 弘基(次鋒)
神賀 士道(中堅)
武本 瑠依(副将)
酒井 大翔(大将)

少年女子
優勝 (国体出場)

今村 真穂(先鋒)
高橋ひかり(次鋒)
五十嵐和奏(中堅)
中村 桜子(副将)
村田 結依(大将)

第七一回茨城県剣道選手権大会兼

第七回全日本剣道選手権大会茨城県予選会
期日 八月二十六日(土)

会場 東日本技術研究所武道館
優勝 松崎賢士郎(筑波大学院)

第七一回全日本剣道選手権大会に出場
第二位 黒川 雄大(つくば)

第七一回全日本剣道選手権大会に出場
第三位 寒川 祥(筑波大学院)

第六二回全日本女子剣道選手権大会

期日 九月三日(日)
会場 ジェイテクトアリーナ奈良

笠 日向子(二回目出場/筑波大学)
三回戦敗退

村田 結依(初出場/守谷高校)
二回戦敗退

第一八回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

期日 九月十七日(日)
会場 おおきにアリーナ舞洲

予選リーグ二位で敗退
宇佐美華凛(先鋒)

櫻井 菜成(次鋒)
小岸 俊友(中堅)
會澤 日向(副将)

川崎 泰知(大将)

第六九回全日本東西対抗剣道大会

日時 九月二十二日(金)
会場 沖縄県立武道館

西軍優勝
茨城県代表選手

本名 和彦(教士八段/東軍四将)
柿元 冴月(四段/東軍次鋒)

第三回茨城県居合道支部対抗戦

日時 十月八日(日)

会場 かすみがうら文化体育館
優勝 水戸

長島 敦(先鋒)
安附 徹(中堅)

宇野 哲也(大将)

準優勝 古河A

第三位 下妻A、守谷A
敢闘賞 土浦A、土浦・かすみがうら、古河B、古河C

奨励賞 高野 耀斗、野村 翔、古谷 優太、小林 真徳、小林 誠礼

特別国民体育大会 剣道競技
期日 十月八、十日(日、火)

会場 霧島市牧園アリーナ
少年女子
第八位 二回戦敗退

成年男子
三回戦敗退

第二八回茨城県実業団剣道大会

期日 十月九日(月・祝)
会場 リリーアリーナ水戸

個人戦
Aクラス 六〇歳以上の男子

優勝 佐藤 次郎
準優勝 堀越 俊行

第三位 増田 光男
第三位 天貝 一男

Bクラス 四五歳以上の男子
優勝 山形 剛

準優勝 小岸 俊彦
第三位 保田 健一
第三位 黒沢 努

Cクラス 四段以上三〇歳以上の男子
優勝 坂井 明広

準優勝 谷嶋 伸一
第三位 重藤 淳志

第三位 佐川 拓史

Dクラス 四段以上二九歳以下の男子
優勝 鈴木 隆生

準優勝 菅原 優輝
第三位 長谷川 俊成

第三位 菊地 慎之介

Eクラス 三段以下三〇歳以上の男子
優勝 宇津野将広

準優勝 粟飯原祥吾
第三位 高野 倫徳

第三位 飛知和誠一

Fクラス 三段以下二九歳以下の男子
優勝 藤田 羅生

準優勝 片岡 蒼
第三位 相澤 蓮

第三位 車 春樹

女子 五段以上の部
優勝 矢口 良子

準優勝 渡邊 彩
第三位 石井明日香

第三位 吉田 匡子

女子 三・四段の部
優勝 二宮 未来

準優勝 小堀 桃佳
第三位 長澤 沙恵莉

第三位 鹿 寿江

女子 初・二段の部
優勝 小林 麻理子

準優勝 大西 恵子
第三位 川口 陽子
第三位

団体戦
優勝 ALSOK A
準優勝 水戸刑務所 A
第三位 ALSOK B
第三位 茨城県庁 A

第五八回全日本居合道大会

期日 十月二十一日(土)
会場 東京武道館
五段の部 佐藤吉典 二回戦
六段の部 橋本篤志 一回戦
七段の部 齋藤健一 一回戦
団体の部 茨城県 第四二位

令和五年度 茨城県中学校新人体育大会 剣道競技の部

期日 十月二十五日(水)
会場 かみす防災アリーナ
女子個人戦
第一位 時田 迦弥(青葉)
第二位 雨谷 星七(青葉)
第三位 宇佐美華凜(青葉)
第三位 橋本 華(青葉)

男子団体戦
優勝 青葉中学校
準優勝 茗溪学園中学校
第三位 土浦第三中学校
第三位 勝田第一中学校
敢闘賞 守谷中学校
敢闘賞 十王中学校
敢闘賞 山方中学校
敢闘賞 下根中学校

期日 十月二十六日(木)
会場 かみす防災アリーナ
男子個人戦

第一位 昆 秀馬(みどりの学園)
第二位 會田 拓海(土浦三)
第三位 石神 颯士(波崎三)
第三位 川島 大輔(青葉)

女子団体戦

優勝 青葉中学校
準優勝 守谷中学校
第三位 霞ヶ浦中学校
第三位 明光中学校
敢闘賞 土浦第三中学校
敢闘賞 笠原中学校
敢闘賞 けやき台中学校
敢闘賞 茗溪学園中学校

第三五回全国健康福祉祭えひめ剣道交流大会

期日 十月二十八〜三十日(土〜月)
会場 愛媛県武道館
第三位 千羽 道夫(監督)
松井 宏之(先鋒)
飯田 真巳(次鋒)
佐藤 次郎(中堅)
石井 修(副将)
徳村 康秀(大将)

いきいき茨城ゆめ国体開催記念

第二回茨城県地区・職域対抗剣道大会
期日 十月二十九日(日)
会場 ザ・ヒロサワシティ体育館(筑西市)
(男子団体)
優勝 警察剣道連盟B
第二位 学校剣道連盟
第三位 警察剣道連盟A
第三位 高等学校剣道連盟

(女子団体)
優勝 学校剣道連盟
第二位 茨城県剣道連盟女子部
第三位 日立地区剣道連盟
第三位 鹿島地区剣道連盟A

(優秀選手)
大関 克典(警察剣道連盟B)
山下 克久(学校剣道連盟)
木村 俊喜(警察剣道連盟連盟A)
川崎 俊輝(高等学校剣道連盟)
星野 若葉(学校剣道連盟)
笠 日向子(茨城県剣道連盟女子部)
小沼 雅穂(日立地区剣道連盟)
藤田真紀子(鹿島地区剣道連盟A)

第七一回全日本剣道選手権大会

期日 十一月三日(金・祝)
会場 日本武道館
松崎賢士郎 準優勝
黒川 雄大 一回戦敗退

令和五年度 武道フェスティバル剣道大会

期日 十一月五日(土)
会場 東日本技術研究所武道館
優勝 いばらき少年剣友会
準優勝 益水館
第三位 (財)勝田若葉会 芳明館
敢闘賞 里神館 結城尚武館
鬼怒西剣道クラブ 下館士徳会

第七一回全国青年剣道大会

期日 十一月十一・十二日(土・日)
会場 東京武道館
男子 敢闘賞
片桐 亨(監督)
小松崎 大聖(先鋒)

比佐 和(中堅)
笹嶋 一希(副将)
和田 悠希(大将)

女子 予選リーグ敗退
高梨 賢吾(監督)
横田 華織(先鋒)
山下 加奈(中堅)
塚田 萌(大将)

令和五年度 第五六回茨城県高等学校 剣道勝ち抜き大会

期日 十一月十三日(月)
会場 かみす防災アリーナ
男子一部
優勝 土浦日大
準優勝 水戸葵陵
第三位 茗溪学園
男子二部
優勝 緑岡
準優勝 土浦第二
第三位 下館第一
第三位 藤代

女子一部
優勝 守谷高校
準優勝 鹿島学園
第三位 取手第一
第三位 水戸葵陵

女子二部

優勝 岩瀬日大
準優勝 鉦田第一
第三位 土浦湖北
第三位 土浦第二

試合参戦記

※開催日程順

令和五年度全日本高齢者
武道大会で準優勝して

「剣道と健康の両輪で」



取手地区

張 貝 義 夫

日本武道館において、準優勝のカップをいただいた、嬉しさを感じながら悔しさ、自分の力量不足も味わったあの日、これからの自分の剣道人生について改めて考える機会になりました。

日々の稽古を、若い時のように、「切磋琢磨する」から、「体調を見ながら自分にあった稽古を見い出す」ことに努めてきました。その日の稽古後、次への課題を明らかにするよう、竹刀の手入れなどをしながら、稽古を振り返り、健康面の大切さも感じてきました。日々の稽古の積み重ねが重要であ

ることを認識しつつ、コロナ禍と高齢化の現実をふまえて、これからの自分の剣道人生は、健康を重視し、自己の体調管理に心がけるようにします。高崎慶男先生からも、腰痛と友達になり、上手につきあうように諭されてきました。

稽古の質と量の問題もさることながら、毎日の食事、体操、ウォーキングなど、年齢を加えるに従って、避けて通れない課題と向き合いながら、無理せず、さりとして油断せず、鍛錬するよう努めます。

あの日の準優勝をきっかけに、改めて高齢化の中の剣道のスタートラインに立ったような気がします。戸頭剣友会などの剣道仲間との磨き合い、励まし合いが基本となり、一歩ずつ、一段ずつ、目標に向かって励んでまいりつものです。

百寿の範士高崎先生や、今まで教えを賜った多くの先生方、剣道で出会った皆様に感謝しながら、我が剣の道を歩んでまいります。

※大会結果は前号67号に掲載しています。

令和五年度全国高校総体
剣道大会で優勝して



茨城県立守谷高等学校
剣道部 監督

安 田 拓 朗

この度、八月三日〜六日に北海道帯広市で開催された全国高校総体剣道大会に参加し、悲願である十一年ぶり五度目の優勝、そして十八年ぶりの春夏連覇を成し遂げることができました。予選リーグでは、岩手県盛岡白百合高校と高知県高知高校に勝利し予選を突破。決勝トーナメント一回戦では、福島県白河高校に二一〇で勝利、準々決勝では長崎県島原高校に二一一の僅差で勝利、準決勝では佐賀県三養基高校に二一二の代表戦で勝利し決勝に進出しました。決勝では、公式試合五連敗中の大分県明豊高校との対戦でしたが、積極的に攻める試合を展開するも五人引き分けの代表戦となりました。代表戦では準決勝に続いて大将の村田選手が出場し、見事優勝を決めてくれました。

私たちは負けられないプレッシャーとの戦いで何度も挫けそうな状況がありました。六月の関東高校剣道大会での敗戦から、「このままではダメだ、今までと違う取り組みが必要だ」ということに気付くことができ、様々な取り組みを行ってきました。その中でも、中学生の強化練習会への参加や神栖市の小中学生との交流を通して小中学生の気迫に触れ、大会直前に初心に戻れたことが生徒にとって大きなものになりました。

また、いつも皆様から励ましの言葉をいただき、それが選手の心の支えとなり、苦しい時期を乗り越えて最後まで諦めずに取り組むことができたことにも感謝しております。今まで「勝ちたい」という気持ちだけで試合に臨んでいたものが、皆様の支えから「感謝」に気づき、今回の全国高校総体では試合で恩返しがい、恩返しをするために勝ち負けに関係なく「出し切った試合をやろう」という境地に至ることができました。感謝の気持ちで最後まで動かない精神状態に繋がりました。悲願の全国高校総体剣道大会優勝を達成できたと考えております。

皆様にご心より感謝申し上げます。今回の経験を今後活かしていきたいように、生徒と共にさらに精進して参ります。

念願の春夏連覇を達成して



茨城県立守谷高等学校
剣道部三年

中村 桜子

私は今回、夏の全国高校総体剣道大会で念願の優勝という結果を残すことが出来ました。しかし、この優勝までの道のりは決して楽なものではありませんでした。私は、選手に入ってから嬉しさよりも守谷の看板を背負っているという重圧に押しつぶされ、自分を見失う時期がありました。そんな時、令和四年四月に第七〇回全日本都道府県対抗剣道優勝大会に私の父が茨城県の大將として出場し、見事、茨城県初となる優勝を果たしました。父の活躍を目の当たりにし、私も父に続き日本一になりたいと強く思うようになりました。父の優勝をきっかけに物事を前向きに捉えるようになり、他人がしない努力をしようと考える行動するようになりました。その結果、春の全国高校選抜大会では日本一になることが出来ました。

全国高校選抜大会後は日本一のチーム

として負けられないという思いばかりが積みもり、なかなか思うような試合が出来ず、苦しい時期が続きました。そこで春夏連覇を達成するために、私たちに何が必要かを考え、春とは違う取り組みを行って来ました。その中でも、茨城県の中

学生の強化練習に参加させていただいたり、神栖市の小中学生と合同稽古をさせていただいたり、他の学校がやらないような取り組みを行い、北海道帯広の地へ向かいました。大会では、このチームも実力の差はあまりなかったと思います。そんな中でも、私たちは他の学校よりも取り組んできた、さらにどここの学校よりも徳積みをしてきたという大きな自信が動じない心に繋がります。全国高校総体でも優勝できたと考えています。優勝後、沢山の方々に祝福の言葉をいただき、初めて春夏連覇の実感が湧きました。茨城県出身として茨城の高校で日本一になることが出来たのはとても嬉しく、応援いただいた皆さんへの恩返しになったと思っています。

す。

インターハイを振り返って



水戸葵陵高等学校
剣道部三年

酒井 大翔

私たち水戸葵陵高等学校剣道部は強豪ひしめく六月の県予選を勝ち抜きインターハイの切符を手にすることができました。その感動もその場で納め、学校に帰り、その日から茨城県の代表として恥じぬように「日本一」を目指し練習に励みました。その内容は自分たちで自らを追い込み後悔することなく戦える体と気持ちを作ること。その課題にメンバーたちと計画し取り組み玉竜旗大会に参加しました。しかし結果は四回戦敗退とまだ力が足りないと感じました。そして短期間でそれを補うためにどうしたらよいかと話し合いました。その結果チームワークと生活を見直しました。食事、睡眠、休養など玉竜旗前は少しハードワークでしたのでその疲労を回復させ、みんなという時間を増やしました。そして開催地である北海道帯広市

に入りました。開会式を終えて三日の予選リーグ第一試合、緊張もあり動きが硬くなってしまうましたが和歌山桐蔭に一一の本数差で勝利、第二試合愛知名古屋大谷とは緊張感も取れて本来の動きを取り戻し四一〇で勝ち翌日の決勝トーナメントに駒を進めました。最終日の第一試合は埼玉本庄第一に二一二の接戦になりましたが本数差で勝利。準々決勝は関東優勝千葉東海大浦安に二一一で勝利。準決勝は玉竜旗優勝で勢いに乗る熊本九州学院に一〇でリードしての大將戦。守りに回ってしまい手元が上がったところに逆胴を奪われ時間、勝負は代表戦になりチームの期待を背負い私が出ました。しかし、一瞬仕掛けが遅れてしまい小手を奪われ敗退して第三位という結果



でした。「日本一」を目指し今まで戦ってきた仲間、茨城県の剣友たち、保護者の皆様や先生方、応援して下さった大勢の方々に感謝してもしきれません。残った後輩たちに高校日本一の夢を託し私たち三年生は次のステージに向けて準備し再び夢を追っていきます。本当にありがとうございます。

令和五年度第五回全日本 歯科医師剣道大会

「七段の部」優勝



つくば地区
大 岩 真

このたび、八月六日に千葉県松戸市にて開催された令和五年度第五回全日本歯科医師剣道大会 段位別個人戦「七段の部」で優勝することができました。この大会は、会員三〇〇人を有する全日本歯科医師剣道連盟が主催するもので、昭和六三年に第一回が開催されて以来今年で三六回目を迎えました。大学別の団体戦が主の大会ですが、平成一六年に

段位別個人戦が開始されました。歯科医師となつてからも剣道を続けている人の層の厚さをうかがわれます。

当連盟は「会員相互の親睦を図るともに剣道理念に基づき歯科医師として人格の統治に努め、もつて社会に貢献する」というモットーに基づき年に一度大会を開催しています。交剣知愛はもろろん歯科医師として大切な情報交換の場にもなっています。八段二名、七段五〇名が在籍しているものの、連盟の人数はまだまだ少ないと思います。大会以外にも錬成会や稽古会、歯学部学生の大会後援など連盟として様々な活動を行っており、最近では医師剣道連盟の大会にも参加させていただくなど、交流の幅が広がっています。今後も医療系の剣道愛好者との合同稽古などを通じて活動領域の拡大を図りたいところです。

今回、優勝という成績を頂戴し、日頃よりご指導いただいている茨城県剣道連盟、つくば・土浦地区の先生方や剣友に嬉しい報告をすることができました。またこうして県の広報誌でそれをご報告する機会をいただきましたので、これを契機に全国歯科医師剣道連盟の活動を知っていただき、連盟の会員獲得にも力を入れていると思います。

第六五回全国教職員 剣道大会に参加して



大将 教十八段
山 下 克 久

八月十日（木）鳥根県松江市において、第六五回全国教職員剣道大会が開催され、団体戦のメンバーとして出場させていただきました。この大会は、普段生徒の指導に情熱を注いでいる教職員が、勝敗にこだわりながらも、指導者としての自覚と誇りをもって切磋琢磨する大会であり、教職員としての品格を問われる大会でもあります。日頃指導している生徒たちに誇れる戦いになるよう選手一同緊張感を持って臨みました。

女子個人戦では、塚田舞先生（東洋大牛久高）が粘りのある戦いを展開し、男子個人戦では、中根悠也先生（水戸葵陵高）が、強敵を次々に倒し、見事三位入賞を果たしました。この二人の勇姿が、団体戦に弾みつけてくれました。

団体戦は、先鋒青木心磨先生（古河二高）、次鋒中根悠也先生（前述）、中堅山下拓真先生（土浦日大高）、副将川崎臣先生（茗溪学園中高）、大将が私というメンバーで臨みました。初戦の三重県戦から準々決勝の大分県戦まで前四人の先生方の活躍で、すべてリードした状況で私に回ってきました。本来なら、攻めに徹し、強気で戦うべきなのですが、守る気持ちが優先してしまい、目標にしていた「教え子たちに誇れる戦い」には及ばない試合内容だったと反省しています。チームメイトのおかげで三位入賞を果たすことができましたが、改めて自分の未熟さを



知ると同時に、全国の同じ志をもった先生方と「交剣知愛」の精神で戦えたことは、自分の剣道人生の貴重な体験となりました。この経験を生徒たちに還元することが私たちに与えられた使命だと肝に銘じて、今後の指導に当たってまいります。出場に際し、お世話になった茨剣連、学剣連の皆様にご心より御礼申し上げます。

全国教職員剣道大会

個人三位に入賞して



水戸葵陵高等学校

中 根 悠 也

第六五回全国教職員剣道大会に団体個人に出場しました。結果は団体個人ともに三位という結果を収めることが出来ました。第六一回大会から茨城県の団体メンバーとして出場させていただき、第六一回大会では団体優勝、個人では山下和真先生が優勝、第六二回、六三回大会はコロナで中止、第六四回大会は団体戦に出場するも一回戦負け、個人では山下拓真先生が

優勝、茨城県個人二連覇という素晴らしい成績を収めていました。第六五回大会は私が団体個人ダブルエントリーをさせていただき団体個人優勝を狙っていました。大会当日、個人戦から大会が始まりました。一回戦、三重県玉置選手と対戦し延長戦にも持前の粘り強さを発揮して一本勝ち、二回戦は世界大会候補選手でもある福井県林田選手との対戦でした。

組み合わせを見た時からここが一番の勝負所だと感じていました。試合が始まってすぐ林田選手の攻撃力の高さに圧倒される場面がありましたが我慢強く捌きながら有効打を打てる機会を探していました。延長戦に入り林田選手の攻めが大きくなってきたと感じ攻めながら無茶して攻めまくるのを待っていると大きく入ってきたところに飛び込み面を決めることが出来ました。準々決勝は香川県竹下選手、先に一本を取られてしまいましたが慌てることなく小手に二本取り返すことができました。準決勝は京都府橋本選手、延長前までは有利に試合展開を進めていましたが一瞬動きが大きくなり惨敗、優勝を狙っていただけに悔しい結果に終わってしま

いました。団体戦では個人戦の悔しさを引きずることなく試合をすることが出来ました。団体戦も準決勝で東京に負けてしまいました。三勝一分けの成績でした。来年度は茨城県開催だ。茨城県の代表として出るために予選から厳しい戦いになるが勝ち上がり団体個人優勝を目標に頑張りたいと思います。

「宝物」を得た夏



青葉中学校 三年

白 子 美 貴

私は青葉中学校剣道部に三年前に入部しました。部の中で唯一の初心者で剣道をはじめた私にとっては、仲間とは大きな差があることを痛感する日々でした。正直みんなと同じように動けない自分に悔しさを覚えたこともたくさんありました。そんな中で迎えた最後の総体、私はチームの中でできることを考えました。試合に出れるチャンスは少な

いかもしれないけど、仲間の努力する姿、たくさんの涙を一番近くで見られました。だからこそ、このチームのために自分のできることを精一杯尽くしていこうと決めました。チームの目標は「最強女子」、そこに向かう夏が始まりました。チームが苦しい場面では、向き合って話を聞いて相談に乗ったり、これまでにないくらい大きな声で応援したり、励ましかって仲間の背中を押しました。また、仲間は試合に出ない私にもたくさんのアドバイスをくれたり、輪の中に入れてくれたりして一緒に戦ってくれました。

結果は県総体優勝、関東優勝、全国三位。

私達の結果に部員、先生、保護者、地域の方々が自分事のように笑って泣いて喜んでくれました。「宝物」を得た夏休みでした。

私はこの青葉中剣道部に入って、集中力や粘り強く取り組む大切さ、礼儀などたくさんのことを学びました。また責任を果たそうとしたり、目標に向かって努力したりする意義を知ることができました。

この経験ができたのも、私を剣道



部に誘ってくれたキャプテンの大蔵 茉央、いつも支えてくれた仲間、家族、そしてたくさんの方々の先生方、先輩方、地域の方々全ての人のお陰で感謝しかありません。ここから先の人生、これまでの経験を生かして、何事にも前向きにチャレンジし成長していきたいです。

この夏得た「宝物」を胸に。

関東・全国大会までの道のり



つくば市立洞峰学園
谷田部東中学校

川崎 泰知

中学最後の年となり、何としても関東・全国大会への出場権を得るために、私は学校と道場の練習だけでなく、父にも稽古をつけてもらう機会を増やしました。また、稽古に参加させていただけるとは、いろいろな人との交流に積極的に参加し、いろいろな人と剣を交え大会に臨みました。

県総体当日は「負けたらおしまい」などと考えてしまい、とても緊張していました。でも弱気にならず、一試合一試合集中し何とか勝ち上がることができ、優勝することができました。県総体直後には「関東・全国も取ってやる」という高い目標ができました。

私はいつも勝負を決めなければいけない場面で、「負けたらどうしよう」など弱気のまま戦うところがありました。

した。これでは関東・全国の舞台で戦うことはできないと思い、関東大会までの約二週間「俺なら勝てる」という強い気持ちを持って試合や練習をすることを心がけました。すると、前よりも緊張しなくなり体も足さばきもスムーズになりました。

そして、関東大会当日、自分の試合の番の時に、今まで聞いたことのない声援と拍手が聞こえました。観客席を見ると私の学校関係者だけでなく、茨城県の方々も応援をしてくれていました。その時、私は一人で戦っているんじゃない、多くの仲間がいたことを思い出しました。一緒に練習してきた仲間や会場で「がんばれ」と声をかけてくれた多くの知り合いを含め、全員が一緒に戦っていると思えました。その結果、関東大会は思ったより緊張することなく冷静に試合ができ、優勝することができました。この大会では大きな自信と、また新たな精神的・技術的な課題も見つかりました。その数多くの反省点を改善するために全国大会まで以前よりも稽古に励みました。

しかし全国大会当日、今まで以上の緊張もあり三回戦で敗退してしまいました。思うような結果を残せず、大変悔しい思いが残りましたが、さらに強くなりたいという気持ちが湧き出てきました。

私は、高校でも剣道は続けますが、今まで以上に努力を重ね、仲間と切磋琢磨し、全国大会等の大きな舞台でも活躍できるような選手になりたいと思います。

最後になりますが、応援してくだつた皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。



第六二回全日本女子剣道選手権大会を観戦して



女子強化委員

中澤 裕子

令和五年九月三日奈良県橿原市にて標記大会が開催されました。各都道府県予選を勝ち抜いた六四名の選手が皇后杯の獲得を目指す女子剣道界で最も権威ある大会です。

本県からは、笠日向子選手（筑波大学三年）、村田結依選手（守谷高校三年）の二名が出場し熱い戦いを繰り広げました。

笠選手は、力みなく首の抜けたきれいな構えに足を使った攻め入りと捌き、いつでも技を出せる左足と相手から離れない目付から冴えある技を持ち味としています。

（一回戦）佐藤悠月選手（秋田・大学生）との対戦は持ち味であ

る足捌きで相手の攻め入りを封じ、終了間際に狙いすました裏からの仕掛メンを決め勝利しました。

（二回戦）早川果沙稀選手（愛知・警察官）は小柄で、積極的に仕掛けようとするのを足で竹刀で捌き、延長三回目笠選手が小さく攻め入り相手のメンを引き出し出コテを決めました。

（三回戦）近藤美洸選手（東京・警察官）には、攻めて揺さぶり相手の出る所を狙います。お互い譲らず延長三回五分の休憩後、笠選手が仕掛メン、近藤選手が出コテ、近藤選手のコテに旗が上がり、惜しくも敗退となりました。

今大会高校生は二名が出場、その一人である村田選手は、足を使い落ち着いて相手を見切り技を繰り出すことを持ち味としています。

（一回戦）小川萌々香選手（愛知・警察官）は上段、足を捌き落ち着いて機会を図り、相手が上段に構え直した刹那、左コテを決

め一本先取。その後相手が無理

に逆ドウを放った所を見切り引きメンで勝ちを決めました。大会前日、奈良入りした際に対上段の稽古もしたとお聞きした通り堂々とした戦いでした。

（二回戦）藤崎薫子選手（大阪・警察官）に対しても、とても集中し相手が技を出すときは出す、受けつ放しにしない戦いを繰り広げます。延長三回五分休憩後、

相手が攻め入る所に出頭メンを放つ惜しい技がありました。最後は相手の拍子を変えた攻め入りに一瞬村田選手の手元が上がり逆ドウを決められ惜しくも敗退となりました。この村田選手の戦いぶりは全剣連「剣窓」十一月号に松田勇人審判長が好試合として載せています。

笠、村田両選手とも足捌き良く、姿勢が崩れず相手から目が離れない、縁が切れない戦いが印象的で、日頃一本に意識を持つ稽古を重ねていることが窺えました。

勝負は紙一重であり、無情で

す。現状を鑑み、納得のいく取り組みをすることで自身の良い所と課題を知ることができ、その経験や手応えが次への力になると感じました。

両選手のこれからの活躍をお祈りするとともに、茨城県女子の強化について考え、学ぶ機会をいただけたことに感謝申し上げます。



大将引分けで二対〇の勝ち、共に副将で勝負が決まりました。

準決勝戦は対群馬県で先鋒が負け、次鋒二本勝ち、中堅一本勝ちで二対一、副将が時間間際で面を決められ一本対二本で負け、大将は一本負けで逆転され悔しい負けでした。

次回二年後、また閉じチームで一緒に戦えるよう稽古に精進し再開を誓っていました。



第七一回全日本剣道選手権大会（準優勝）を終えて



筑波大学大学院
松崎 賢士郎

この度、私は第七一回全日本剣道選手権大会に茨城県代表として出場し、準優勝という結果でした。

まず、応援してくださいました皆様、御礼申し上げます。

決勝という場面は何度か経験があります。また、この全日本での決勝は三度目ですが、今回のような緊迫した異様な雰囲気、初めての経験でした。大会を通して今まで以上の多くの学びや反省、課題をいただけたこともまた、有難く感じております。

前回の大会の反省を踏まえ、私は今大会でのリベンジ（優勝）を一つの目標に掲げていました。また、そのプロセスについて、自分がいつまでにどのような状態になっ

いるべきかを逆算的に整理し、それぞれの小目標をクリアしていくことで目標達成を目指してきました。中でも一貫して取り組んできたテーマの一つとして、「面を活かす攻めの強化」が挙げられます。私は面技を得意とする一方で、それ以外の技に対する苦手意識がありました。そのため、

苦手意識のある技は、得意な面技をより活かすための「攻め」として再認識し、普段の稽古より打突の失敗を恐れずに実践・工夫していくことを大切にしてきました。

手応えは十分に感じていたのですが、決勝という最も重要な局面において「絶対に負けられない」という気持ち先走り、一年かけて再構築した剣道を十分に発揮することができませんでした。己の未熟さを痛感しましたが、同時にこれまで積み重ねてきたことに對する自信も得た一日となりました。

次なる大会は、二〇二四年七月

開催の世界剣道選手権大会です。

本大会を通過点として、さらに成長した姿をお見せできるような日々の剣道生活に励んで参ります。引き続き、応援の程よろしくお願いたします。



上段と対戦



茨城県代表の黒川選手と

段位審査合格者

剣道七段

期日 令和五年八月五日
会場 謙信公武道館

小澤 和也 遠藤 瑞土
坂井 明広 平岡 永照
高田 真治 弓削 博子
長南 孝男

剣道六段

期日 令和五年八月六日
会場 謙信公武道館

矢口 広喜 関口 聡
佐藤 晶子 大槻 拓己
松崎 寛 宇佐見 稔則
岡谷 美紀 小島 成人
埜 万治 櫻井 博子
板垣 元

剣道七段

期日 令和五年八月二十六日
会場 福岡市総合体育館

後藤 伸一

剣道六段

期日 令和五年八月二十七日
会場 福岡市総合体育館

山下 和真

杖道五段

期日 令和五年十月一日
会場 江戸川区スポーツセンター

黒沢 敬二

居合道五段

期日 令和五年九月二十四日
会場 わかぐり運動公園体育館

鈴木 悠一 宇野 哲也
蓮見 憲一

居合道四段

千葉 謙 足立 万代
古谷 きよみ 二瓶 正光
高橋 一夫 森 正晴
森 隆

剣道六段

期日 令和五年十一月十二日
会場 枇杷島スポーツセンター

本多 勝則

剣道・居合道・杖道称号合格者

期日 令和五年十一月十五日
会場 エスフォルタアリーナ八王子

剣道教士

遅野井 裕樹 矢口 二三也
小磯 優 國谷 雅之
雨谷 鉄平 相馬 卓
本多 静 川崎 佳子
鈴木 巧 大窪 隆嗣
塚田 香代子 湯山 弘法
長岡 武史 大島 利昭
落合 弥生 山下 悦子
加藤 宏二 板東 徹
米沢 和明 飯田 千加代
小島 悦雄 秋山 桂一
山内 源治

剣道錬士

原田 久美 大関 克典
飯塚 大河 谷嶋 伸一

安藤 温子 渡部 智明
青木 祐太 新野 健
岡崎 武司 中野 大智
菅谷 正造 川松 郁雄
村尾 考啓 本囿 敏和
鈴木 宜宏 堀井 孝昭
大部 諭 関 光一
白澤 江身子 安原 洋治
鈴木 修恵 鶴岡 光輝
栗野 暢久 福田 淳一
神庭 正裕 埜 聡
登坂 優一 長南 孝男
藤崎 俊啓 豊田 邦洋
塚田 正 青木 俊一

居合道教士

二瓶 貴博 早瀬 由美子

居合道錬士

藤本 敏子 岩間 正典
金澤 廣善

杖道教士

松下 俊夫

剣道六段

期日 令和五年十一月十五日
会場 エスフォルタアリーナ八王子

青木 祐喜 五月女 浩
袴塚 修 茅根 誠
飯島 竜史 田山 睦
山形 剛 秋田 洋
大木 大輔 奥村 君雄
来栖 亨 鈴木 敏一

剣道七段

期日 令和五年十一月十六日

会場 エスフォルタアリーナ八王子

川上 秀洋 久保谷 隆
草山 俊之 太田 和也
川田 俊昭 武澤 保美
伊野 忠好 須藤 和則
山田 良男 松藤 由朗

剣道五段

期日 令和五年十一月十八日
会場 東日本技術研究所武道館

山崎 博通 横田 秀晃
四倉 剛 末永 光
坂野 ゆかり 中野 一寿
秋庭 和人 齋藤 健一
相良 明希子 山崎 剛史
大竹 雄貴 酒井 大佑
竹内 温希 柳 東弦
作山 嵩弘 鈴木 美穂
大竹 颯希 川崎 俊輝
菊地 祐

剣道四段

期日 令和五年十一月十八日
会場 東日本技術研究所武道館

中山 隆史 長濱 俊之
中條 晋一郎 渡邊 香里
石川 達也 車 春樹
岡野 敦也 戸島 大輔
小原 真師 森 豪
丸目 陽向 関 舜至
加藤 大征 大輪 絢心
小竹 一輝 平尾 尚武
阿部 泰悟 五十嵐 大智
多川 泰地 五十嵐 翔
上原 鉄平 鷹巢 紗里奈
末武 拓大 渡邊 哉斗
川合 芳奈

合格者の声

感謝



水田道場

長 南 孝 男

今年八月の新潟審査会で七段に昇段致しました。挑戦三回目での合格でした。まず私の師である水田重則先生をはじめ、ご指導していただきました先生方に心より感謝申し上げます。

今回の立会いでは、不離五向で相手に向かい、初太刀で捨てきつて正面を打突ることができました。打突後も十分な残心を示し、縁を切らずにさらに攻め入り、相手が中心を取り返して動き出そうとするところを先々の先で小手を打ちました。水田先生から、七段審査は「位取り」とご指導いただいたことが、少し表現できたのではないかと思います。

私の所属する水田道場では、水曜日 剣道形の稽古があります。水田先生のご指導で高い次元の勉強させていただき、さらに防具を付けてからの竹刀剣道にもつながったと確信しています。私の七段審査の初挑戦は令和四年十一月でしたが、間際になってから剣道形を稽古するような有様で、先生から「そのような剣道形では受審する資格がない」と注意を受け、それ以降、水曜日の稽古に参加して剣道形をご指導いただき、体の運用の仕方や理合いについても少しずつ理解していきました。合格した審査会では、日本剣道形の審査についてあまり不安がなかったのも、良い立ち合いができた要因だと思います。剣道形を稽古するようになってからは、剣道の稽古でも礼をして躊躇する時に「先の気位で先々の先で」を心で唱えて行うようになりました。日本剣道形の稽古が、少し格をあげてくれたのだと思っています。

また、五月に高崎市で社会体育指導員養成講習会初級を受講し、

剣道の基本から指導法を勉強させていただいたことも自分の剣道の幅を広げるきっかけとなりました。更に県外稽古会にも参加させていただいたこと、剣友との稽古で、指導法を研究する機会をいただいたことも、今回の合格に繋がる大きな要因だったと感じています。こうした機会を与えてくれた先生方、剣友にも改めて感謝いたします。この感謝の気持ちを忘れず、今後も精進してまいります。

剣道七段に合格して



芳明館

遠 藤 瑞 士

新潟県で行われました段位審査

に合格することができ、剣道七段を頂戴しました。日頃よりお世話になっている芳明館の高梨友重先生をはじめ、ご指導やご助言をくださった道場の先生先輩方、稽古

を共にしたたくさんの方の剣道仲間大変感謝しております。この場を借り、厚く御礼申し上げます。

さて、私は各種大会に右二刀で出場しておりますので、審査はどうしているのかと問われることが多くございます。私は、自身の剣道修練全体におけるひとつの位置付けとして、試合で二刀を採っておりますが、一刀中段を蔑ろにするつもりはありません。一刀中段は、基礎的技量の修練はもちろんのこと、その成果を測る際にも最も適した、最も普遍的な構えであります。究極的には、一刀も二刀も同じ剣理であり本質的に通じていると考えていますが、他方、審査の合否が絶対とは限らないものの、自身のその習熟度を客観的に確認するため、段位審査には全て一刀中段で受審してまいりました。

七段受審では五回の不合格をいただきましたが、その度に、自分の剣道を省みる機会となり、先生方からの助言について一層よく考え、咀嚼することで修練の深化を



実感できました。このため、経済的な要素を除けば不合格は苦にならず、いずれの機会も明らかに自分の成長の糧となり、大変有意義であったと感じています。また、受審期間を経て、二刀に關しても攻めや間合いの感覚等様々な部分に好影響があり、審査を意識した稽古が結果としては、最も効果の高い鍛錬につながったように思います。

七段審査はこれで一区切りとなりましたが、剣道修練として見れば一側面に過ぎないと考えています。さらなる飛躍を目指し、稽古を続けたいと思いますので今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

皆様に感謝



芳明館

山下 和真

八月二七日に福岡県での剣道六段審査会において、合格をいただくことができました。今回合格を

いただいたことは、今までご指導いただいた先生、先輩方をはじめ、多くの剣道関係者の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

私は現在、つくば市みどりのにある、「株式会社エンボス企画」という会社に勤務しております。

ここでは、スポーツ福祉事業として、スポーツ保育園、スポーツ児童、スポーツクラブの運営に加え、教員の働き方改革に伴う学校部活動の地域移行に携わる仕事をさせていただいております。その中で、地域交流型の剣道講座の指導もさせていただくようになり、剣道に対する考え方や価値観が広がって

きました。今まで私の中では、「強くないらなければ剣道の面白さはわからない」という考えが大きな価値として存在していました。経験の中で得た勝利というものが楽しさであり、充実感につながっていたからです。もちろん、その要素も必ず存在するものであることに

変わりはありませんが、地域の多種多様な価値観を持った多くの少年少女たちが、他校の生徒や道場の剣士と触れ合うことで、今まで知らなかった人たちと繋がりを持ち、いきいきと稽古している姿を目の当たりにして、これこそが剣道の楽しさであり、喜びなのではないかと、今は強く感じております。

私自身の剣道生活を振り返ると、たくさんの先生や先輩、後輩に恵まれ、交流を深めることができました。どれもかけがえのない出会いであり、剣道を楽しみ続けることができました。このことが今回の六段合格につながったのだと思います。子どもたちがより剣道を楽しい

と感じ、生涯にわたって続けることができると環境づくりにより少しでも貢献できるよう努力していくことが、私の皆様への恩返しだと考えております。

剣道六段に昇段して思うこと



北萩剣友会

佐藤 晶子

私が剣道六段への昇段を目標に掲げた一番の理由は、亡くなった父の言葉でした。とにかく褒めることが父の得意技。それが嫌味なく心に入りました。「晶子なら七段取れるよ。」と。私も若い時は、教員生活二七年間の中で中学校剣道部の顧問と自分の稽古も続けてきましたが、結婚し、子育てと中堅の職員で働き盛りになると、剣道から足が遠のいていきました。早期退職し、父の言葉が遺言のように思えて、再び三年前から剣道

を始めるようになりました。

剣道六段の壁は、一回目は越せず、二回目に挑戦。北萩剣道連盟道場を初め、県合同稽古会、日立市の平子先生の道場等、自分の体力をみて、稽古に励みました。自分の剣道を「〇」とまでは言いませんが、構え・攻め方、そして、相手との駆け引き等の在り方を見直して、修正することに時間を費やしました。

地区連会長の石橋先生には、構えは剣先を低めに構えること、気持ちは「七割行くぞ」、「三割さあ来なさい」の心持ちで駆け引きをすること、相手を引き出してそこを打つこと、相手に攻められても、下がらずに体を裁いて相手の懐に剣先を付けること等、私にとってとても貴重なご指導をいただき、大変感謝しております。他にも、打ったら止まらずに抜けること、審査時には、四・五本ぐらいの技の本数で打ちすぎないこと等、審査合格の助言をしてくださいました。指導していただいたことを自分なりに直すように稽古に励みま

した。初めは、攻めて自分から打つ癖が直らず、攻めて相手が動いた所を打つことに苦労しました。道場の色々な先生方から稽古をいただき、大切な指導を意識し稽古を続け、以前の剣道と自分でも変わってきたと思えるようになってきました。まだまだ上手くできない所はたくさんありますが、これからも生涯修行と心して、稽古に励みたいと思います。



杖道五段合格



土浦杖道会

黒 沢 敬 二

五度目の挑戦で合格できました。お相手していただいた全ての方に感謝申し上げます。

一回目はコロナが猛威を振るっていた三年前の挑戦でした。この時の東京武道館での杖道の昇段審査は、いつもの剣道場とは違い、一階の大道場で行われました。感染対策のため窓もドアも開放され、人との距離をとり、マスクをつけての審査といういつもと違う感覚のものでした。その上、審査相手は、受験者が奇数だったため、一度受験し終わった方がお相手いただくこととなり、審査前の気合合わせた事前稽古はできず、本番を迎えることとなりました。

出番まで整列して待機するのですが、高齢のため審査は後方であり、待機時間はより長く強いられ

ます。座って体を動かすことはばかられ、寒さで足腰が動かなくなりました。当然、審査では杖の握りがうまくできず、体の返しもぎこちなく思うような動きはできませんでした。結果として不合格は当たり前のことでした。

その後三度の挑戦は、初めての相手の方と呼吸を合わせることは難しく、前回までのマイナスイメージを払拭できずに審査に臨んでいた気がします。今回は、どのような条件でも普段の稽古ができるように準備と稽古を重ねました。合格してから振り返ると、自分を見直すための必要な時間であったと気づきました。最初に、勢いやタイミングがよく、運よく合格していたら、杖道の攻めや理合など深い理解まで届かなかっただろうと思います。

当然、四度不合格という結果は、勉強不足と稽古不足が原因でした。これまでの道場稽古、合同稽古、出稽古等での指導を受け自分を振り返れたからこそ合格に結び付きました。指導をしていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

つくば地区剣道連盟と
韓国との国際交流



つくば地区剣道連盟
会長

飯泉 省三

令和四年、韓国テジョン広域市外国人
住民統合センター（※国際交流支援業務）
を通じて「テジョン広域市剣道会」（以下、
剣道会という）から、剣道親善交流の申
し出がありました。（※つくば市とテジョ

交流の概要	つくば地区剣連・テジョン広域市剣道会剣道交流会
目的	剣道を通じて両国の剣道文化に触れることにより相互理解を深め、両市の剣道振興に資する。また隣人として親交を深めるきっかけとする
参加者	テジョン43名、つくば剣連43名、茨剣連3名
交流内容	第71回全日本剣道選手権県予選会見学(26日)、まつりつくば視察文化体験=茶道(27日)、剣道講習会、交流稽古会(27日・46名参加) 歓迎答礼晩餐会、交流記念杯の贈呈(36名参加)
期日・場所	令和5年8月25日(金)～28日(月)・つくば市内
主催	つくば地区剣道連盟
主管	つくば地区剣道連盟交流推進委員会、つくば地区剣道連盟交流チーム
後援	(一財)茨城県剣道連盟、(一財)つくば市国際交流協会、(一財)つくば市スポーツ協会剣道部、つくばみらい市スポーツ協会剣道部

ン広域市は、交流協力意向書締結都市。）
またとない国際親善交流の申し出を受
け、実施体制整備に取り組みました。先ず、
会員の合意形成をはかりながら協力体制
を構築するため「交流推進委員会（一〇
名）」を設置しました。併せて、実現に向
けた全体計画原案の策定、内部の調整、
剣道会との連絡・調整・協議、歓迎など
具体的に事業を牽引する「交流チーム（六
名）」を設置しました。親善交流実施時に
は四名の通訳を配置しました。（※剣道会
は一名配置。）

さらに、(一財)茨城県剣道連盟(以下、
茨剣連という)及び一般財団法人つくば
市国際交流協会、(二財)つくば市スポー
ツ協会剣道部及びつくばみらい市スポー
ツ協会剣道部に「後援を頂きました。」

つくば剣連では、次のプロセスで交流
を推進しました。「交流チーム」↓「交流
推進委員会」↓「役員会」↓「理事会」
↓「総会」「交流決定」↓「交流チーム」
↓「交流推進委員会」↓「交流実施」
後援団体の皆様には、適切な時期にご指
導・ご協力を頂きました。

剣道会との事前協議は、令和四年二
月二四日からスタートしました。剣道会
は「まつりつくば」に合わせた日程を希
望していたことから、準備期間が八カ月
間と短かったため、コンセンサスの醸成
と事前調整・準備等を同時並行で行うこ
ととしました。始めに、両者で交流方針
を立て、それに基づいて具体的な協議を
行いました。事前協議を重ね、令和五年

五月二二日の総会において交流実施を決
定し、本格的な準備に取り掛かりました。
両者の会議は、「言葉の違い」が大きな
課題でしたが、剣道会は日本語が堪能な
外国人住民統合センターの職員に加えて、
通訳を配置したことでスムーズに実施で
きました。会議のツールは、Zoom会議(四
回開催)を基本に、翻訳アプリを活用し
たメールやライン(多数)により実施し
ましたが、日時の調整、場所の確保、会
議参加者選考など会議実施上の課題もあ
りました。

滞在期間中の全ての活動についての調
整・準備は、主に交流チーム及び事務局
が詳細な役割分担を設定し実施しました。
課題山積でしたが、後援団体の皆様や会
員の惜しみないご協力により乗り越える
ことができました。

短い期間ではありましたが、一連の活
動を通じて、隣国韓国の剣道や文化の一
端に触れるとともに、親しく交流できま
したことは、つくば剣連にとりまして得
難い貴重な経験でした。また、所期の目
的に加えて、達成の喜びを感じたこと、
連携・協力の重要性和その効果、組織的
な活動の力強さを改めて認識できたこと
など、言葉に尽くせないほど多くの学び
を得ることができました。今後、これを
機会に、国際交流をどのように発展させ
ていくか鋭意検討してまいりたいと考え
ています。

結びに、茨剣連、つくば市国際交流協
会をはじめ、つくば市スポーツ協会剣道

部及びつくばみらい市スポーツ協会剣道
部の皆様には、多岐にわたり心温まる多
くのご支援・ご協力を賜り、実りある親
善交流を実施することができました。こ
の場をお借りして会員一同衷心より感謝
を申し上げます。誠にありがとうございます



コラム 女子剣道特集

主婦と仕事と剣道

芳明館
千野 千佳子

私が剣道を始めたのは中学1年の夏で高校、大学と続け、大学卒業間近に四段審査に合格しました。その後企業に就職して社会人となり、転職、転職、結婚、出産、育児、義母の介護を経ました。この間二三年間全く剣道に触れることなく過ごしてきました。

生活の中では本当に様々なことがあります。フルタイムで働きたがら母として、妻として、古い土地の嫁として家庭を回していくには日常の睡眠時間は四時間ほどであり、ただ目の前のことをこなしていくだけで精一杯の日々でした。(このようなご経験のある先輩方はたくさんおられると思います。)そんな中で当時は大きな不満があったわけ

ではないのですがいつも思っていたのは、この先自分がどうなりたいか、どうありたいか。ということでした。

毎日家族のご飯を作り、お弁当を作り、会社に出勤して残業して帰り、PTAの会合や地域の行事の打ち合わせ、親戚づきあいなど、会社の仕事は休みの日でも基本主婦には休みなどはなく、でもそういうものだと思っ過ぎておりました。

そして子供が成長するにつれ、どんなイキイキと輝いていく姿を見て嬉しくもあり、と同時に「はて、自分はどうだろうか。」と考えるようになりました。私には息子のように積み重ねた時間をもつて輝くものがあるだろうか、と自分をちゃんと見つめて自分を認められるようになりたいと考えようになりました。

そのころちょうど茗溪学園の川崎先生にご縁をいただき、先生の生徒さんたちにご指導されるお姿を見て「私が私を認めるために向き合わなければならぬものは、これだ、剣道だ！」と気づきをいただくことができました。なぜなら私は逃げるようにして剣道から離れたからです。そこからです、「よし、や

ってみよう」と剣道復帰を決めたのは。

二〇年以上も運動をしなかった人間が、立派なおばさんになっていざ面をつけるということが、どれだけ身体的に辛いことか。これは想像以上でした！吐いた分だけ吸うことのできない肺の弱さや素振り二〇本で感じる体の限界やすり足がでさずに足がもつれて転んでしまうなど、どれも若いころには感じることのできなかったことで、悔しくもありでもなぜか可笑しくて仕方がありませんでした。今は何とか小画面が打てるような筋力を取り戻してきたところです。

そして復帰したことできちんと自分の体にも向き合うようになりました。この年代の女性特有の体の不調は私自身にも例外ではなくあり、稽古を続けるために塩梅を見る大切さも学んでいます。若いころには一〇〇か〇かだった私もお陰様で物事の考え方に幅を広げられたように思います。睡眠時間も以前より多くとるように生活も変えました。それから、仕事を続けながら稽

古に参加することができているのはなんととっても周りでご指導・サポートしてくださる先生方・先輩方の存在です。これには本当に感謝しかありません。いつも笑顔で、事務的なことも含め細やかにご準備ご対応いただく先生方、お時間に労をいとわずご指導下さる先生方、愛情がたっぷりただ皆さんとその場にご一緒させていただくだけでも幸せを感じている次第です。

主婦と仕事と剣道、どれも続けていけるのは剣道を通して愛情を感じているからだと思います。子供時分だけでなく大人になってからもこのように感じ成長させていたいただけるのは本当に幸せなことだと思います。

一月の五段昇段審査では残念ながら不合格でしたが、でも重ねた稽古の中から見えてきた課題などもあり今後どうそれを克服していくか、それに伴ってどう自分が成長できるか楽しみなどあります。また、その成長の喜びを社会の中でどのように還元していけるかも模索中です。引き続き何卒皆様、よろしくお願いたします。

交 剣 知 愛

(鹿島地区剣道連盟・東京都墨田区
剣道連盟との交流稽古会)



土浦地区剣道連盟
会長
倉持 利夫

「交剣知愛」とは、剣道を通してお互いの人間性を理解し合い、親睦を深めることにより豊かな人間性と人間的向上を目指すことと理解しています。

土浦地区剣道連盟では「交剣知愛」を旨として会員相互の親睦を深め剣道を楽しむことを第一義として活動しています。毎週の定例稽古では会員相互に和気藹々と稽古していますが、これまで他団体との交流稽古会も数々実施してまいりました。この稿では最近実施した二つの交流稽古会について紹介いたします。

毎週実施している土浦市武道館の稽古から離れ異なる環境で稽古をさせていただきました。武道の神様・武甕雷の大神を祀る鹿島神宮。その境内にある神宮道場で歴史と伝統を感じながら厳かな雰囲気の中での稽古でした。鹿島地区

の皆さんとは10年ぶりの交流稽古会でしたが前回と変わらず温かいおもてなしを頂き親睦を深めることができました。県内で切磋琢磨する仲間との久々の稽古で豊かな時間を過ごさせていただき、宮本尚朋会長はじめ参加していただいた皆様にはこの稿をお借りして感謝申し上げます。

土浦出身の先生とのご縁で実現した、最近無かった県外の皆さんをお迎えしての交流稽古会でした。東京都の剣道連盟でも顕著な活躍をされている墨田区剣道連盟の皆様でしたので少し緊張いたしました。墨田区の皆様の気さくで剣道に対する真摯なお取り組みに敬意と嬉しさを覚えると共に、剣道を修行する仲間として真の楽しさを実感させていただきました。



鹿島地区剣道連盟との交流稽古会 (鹿島神宮道場にて)
9月30日実施 (写真1)



墨田区剣道連盟との交流稽古会 (土浦市武道館にて)
10月14日実施 (写真2)

きました。また、八段の中島先生・本泉の本名先生が元立ちとなり稽古をいただき内容の濃い稽古会となりました。これを機会にさらに親睦を深めるために交流を活発にしていきたいと思います。

この他にも私達は、土浦地区・つくば地区・かすみがうら地区・石岡地区の四地区による交流稽古会などにも毎回参加し、多くの仲間との交流を図っています。

それぞれの剣道に求める事柄には「理念の追求」「技術・競技力を高め試合に勝つこと」「高段位になること」「余暇を楽しむこと」「健康のため」など様々ですが、それらを実現するために大切なこ

とは楽しむことだと思っています。

先日「稽古の後の一杯が美味しいんだ。俺はそのために稽古してるんだよ。」という方や「稽古後の爽快感がたまらないんだ。」「仲間との稽古が嬉しいんだ。」と楽しそうにお話しされる剣友と出会いました。これはある交流稽古会での一場面です。このように交流稽古会は交流の輪を広げ親睦を深めることで楽しさを演出し人生の幅を広げてくれるものになっています。また、「剣道は楽しいものだ」と幼少年の皆さんにその姿を見せてあげることが、近年問題になっている剣道人口減少対策の一助にもなるのではないのでしょうか。

茨城県剣道連盟には社会的貢献の期待が寄せられています。幼少年の健全育成、社会体育による健全な社会環境の醸成、高齢者の充実した余生の創造など、社会環境の変化に伴い毎年その期待は大きくなっています。それらは茨剣連会員の皆様のお取り組みにより着々と具現化しておりますが、さらに継続・発展することが求められています。

土浦地区剣道連盟では仲間の皆様と共に親睦を深め出合いの喜びや楽しさを求めて、社会貢献を含め人生を豊かにできるよう「交剣知愛」による交流を今後も進めてまいりたいと思っています。

道場紹介

わたしたちの《どろじょう》

那珂湊若汐会

(ひたちなか・那珂地区)

代表者 篠原洋勝



人としての基本である「約束を守る」、「時間を守る」、「挨拶をきちんとする」を大切に指導しています。

神栖少年剣道教室

(鹿島・神栖地区)

代表者 金井信行



四年ぶりに開催された神栖市菊祭り剣道大会(主催:神栖市剣道連盟)に地元各道場とともに後援団体として参画。規模を大幅に拡大した本大会の運営に貢献した。

つくば少年剣友会

(つくば・取手地区)

代表者 駒館義夫



つくば市長杯スポーツ大会(剣道の部)個人戦:小学生三年生以下の部、中学生女子の部優勝
団体戦:小学生低学年の部二位入賞
諦めない気持ちで稽古に取り組んでいます

境剣友会

(古河・常総地区)

代表者 間中勝男



四年ぶりに県内団体をお招きし、記念大会ともなる第四五回境町近県少年剣道大会を開催することができました。
主将として、不撓不屈の精神でチームを引っ張りチーム一丸となって頑張りたいです。

表紙の能面の紹介

表紙の能面は観世流能楽師 橋岡伸明氏所蔵の写しです。伸明氏は人間国宝能観世流能楽師 橋岡久馬氏の子です。山崎氏が半年借り入れ写したものです。能面は模倣の芸術です。

能の演目は、一番から五番までに分類されます。しかし、能「翁」が演じられる場合は、すべてに優先されます。能「翁」は、農村の祭りの行事が次第に演劇化されたものとされ、神聖化されていて特別な祝いの折りに舞うことになっています。祝いの儀式といった感があり、天下太平五穀豊穰（ごこくほうじょう）を祈るものです。

表紙の翁の面は他の能面とその形式が異なっています。顎（あご）は、切り顎になっていて上顎と下顎が離れています。また、『ぼうぼう眉』と称される眉毛もついています。それらの特徴は、能面以前の面からの様式を受け継いでいるものです。能面のほとんどが霊的なものを表現しているのは異なり、翁はめでたい神事をことほぐためのもので、上品な優しさを表現しています。また、「へ」の字形にくり抜かれた眼にも、額（ひたい）から頬にかけての溝状（みぞじょう）の皺（しわ）にも、人生の苦楽のみこんだ柔和（にゆうわ）な笑いが見られます。

作者・山崎淳一先生のプロフィール

剣道教士七段、居合道錬士六段。小学校の校長を経て、かすみがうら市に二〇二二年九月に、能面の展示館「至寶館」を開設。二〇年以上の能面を制作を続け、観世流能楽師の小島英明氏（重要文化財指定保持者）が実際の能舞台で使用するほどの腕前。これまでに制作した能面は八〇面になる。

事務局だより

令和五年度の本連盟事業も早いもので半分が経過しました。

各事業を遂行するにあたり、会員皆さまのご協力に感謝いたします。

さて、事務局では各種大会や昇段審査情報等をホームページで発信しておりますが、ホームページの充実をはかるため、ホームページのトップページにある「稽古会場一覧」を修正・追加等があれば事務局まで連絡をお願いいたします。併せて道場等でホームページやブログ等を作成している場合、本連盟のホームページにリンクします。ご連絡ください。

嬉しいことに県外の多くの剣友からも茨剣連のホームページを見ていると話もいただいております。今後もタイムリーに情報発信を行ってまいりますので宜しくお願いたします。

なお、令和六年度の会員登録料【年会費】の振込用紙を同封しておりますので、お支払いを宜しくお願いたします。

編集後記

第六八号を発刊することが出来ました。中学生、高校生、教職員、一般、高齢者の競技成果を報告するにあたり、予定したスペースをはるかに超えるものです。本県のレベルの高さをあらためて感じます。また、競技だけにとどまらず、国際交流、他域との交剣、女性としての剣道など寄稿をいただき、内容の深いものになりました。ありがとうございました。

来年度から中学生の部活動が地域移行と進んでいきます。その中での苦勞や喜びをこの広報誌を通して共有できればと考えております。

（村嶋記）

茨 剣 連 廣 報

発行日 令和六年一月

水戸市堀町一六六一一三

発行 人

一般財団法人 茨城県剣道連盟

広報委員長 村嶋恒徳

委員 金田重保

委員 饗場千晶

委員 宮本均

印刷 野崎印刷紙器株式会社



第70回 全国高等学校剣道大会 優勝 茨城県立守谷高等学校
(R5.8.3~6)



第71回全日本剣道選手権大会 準優勝 松崎 賢士郎
(R5.11.3)